



キッチンから西向きのダイニングを望む



南と東向きのあるリビング・ダイニング



トップライトから光が差し込む個室デスク

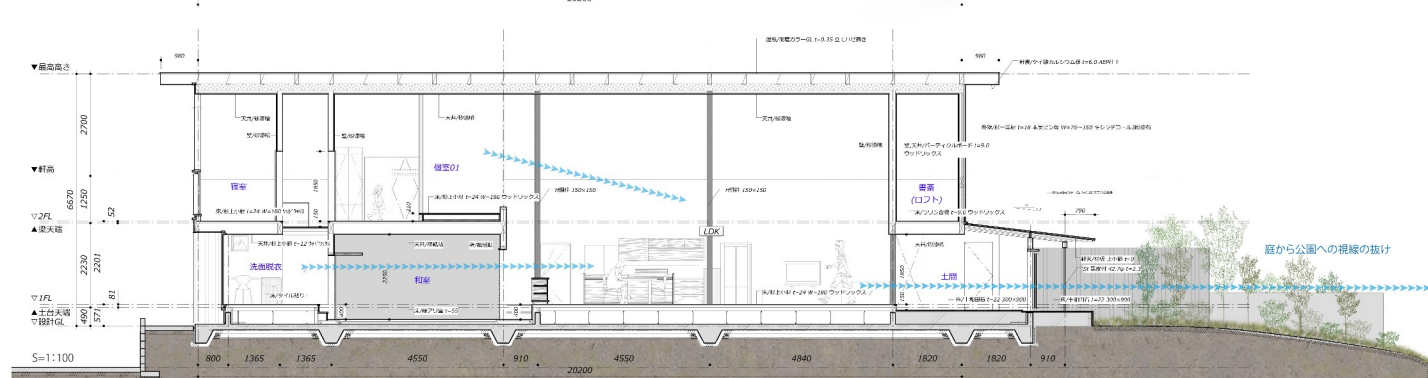
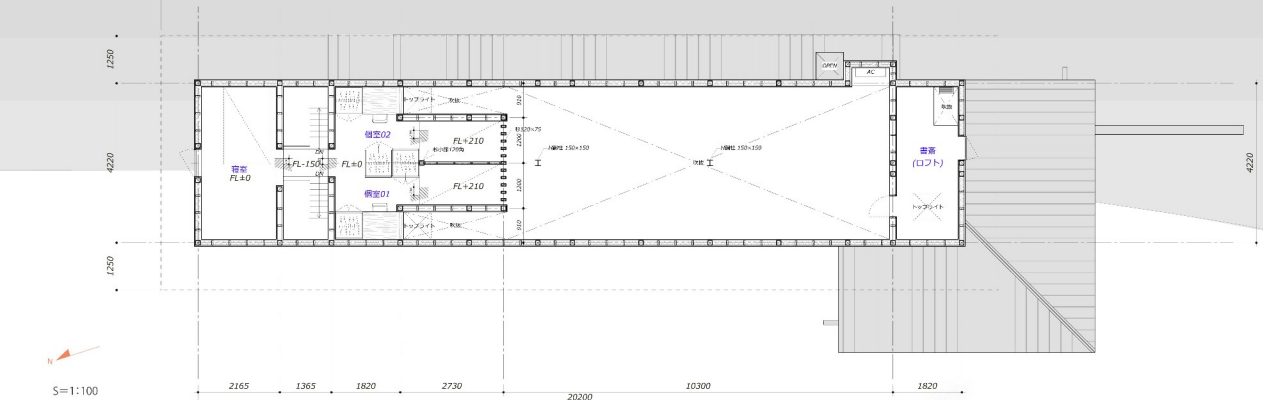
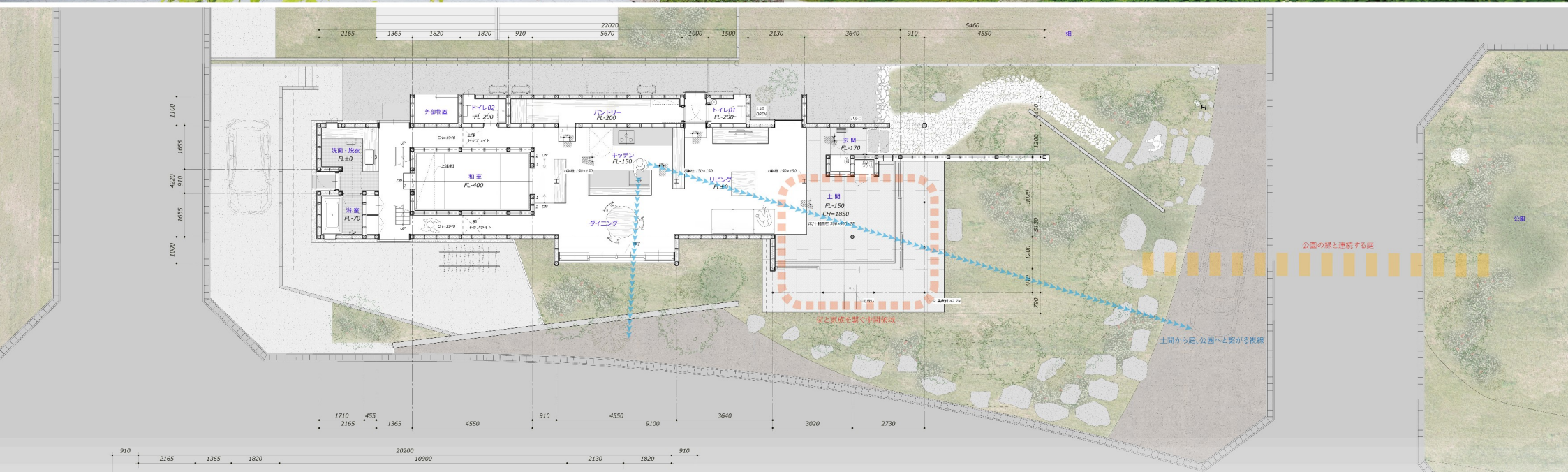
ふるまいの庭



街に開いた庭とプライベートなLDKスペースを繋ぐ土間空間



長い敷地に沿って配置された切妻屋根とふるまいの庭



設計要件

豊田市浄水にあるこの敷地は、施主の祖母が畑をしていたという土地が土地区画整理によって代替された南西角地であり、公園や畑に面した南北40m以上の細長い土地である。
この浄水という場所は、昔は小高い山で畑を中心としたのどかな場所であった。その後都市計画によって開発が始まり、以前の風景が減りつつある。そこで、かつての「地域に開かれたのどかな風景」をこの土地に残しつつ、その家族らしい時間を楽しむことの出来る住まいを目指し、設計を始めた。

ふるまいの庭

40m以上の南北に長い敷地に対して、シンプルな切妻屋根の細長い建物置き、南側の妻側には1700mmの深い軒出のある屋根を取り付けた。その屋根の下は、美容師でもある奥様がご主人やお子様の髪をカットするための場所であり、そして、地域に開放するお庭とプライベートな時間を楽しむLDKスペースとの中間領域となる。十和田石でできた土間空間は、冬には日差しを取り込んで熱を蓄え、夏には石の冷却作用で涼をとれる場所として機能し、街と家族を繋ぐ憩いの場となる。また西側には緑地帯としてのスペースをとり、約1mの高低差を利用しつつ樹木の配置に思慮することで、生垣を設けずとも視線を遮れるように工夫した。
このような工夫から、街とこの家族の両者に対して、ほど良い関係のお庭が生まれた。

街に対してのふるまいをもったこの庭が、長い土地、長い家、そしてこの家族が過ごす長い時を、やさしく包む器としてゆっくりと成長してくれることを願っている。

